

平成 29 年度
自己点検・評価報告書

学校法人昭徳学園
九州動物学院

平成 30 年 3 月

目 次

はじめに	2
I 学校の教育目標	3
II 本年度に定めた重点目標や計画（仮案）	3
III 自己点検・評価の方法とスケジュール	3
IV 自己点検・評価項目の取組及び達成状況	4
1 教育理念・目標	4
2 学校運営	5
3 教育活動	6
4 教育成果	7
5 学生支援	8
6 教育環境	9
7 学生募集と受入れ	10
8 法令等の遵守	11
9 社会貢献	12
V 自己点検・評価結果に対する外部評価（講師会議）	13
1 外部評価の方法	13
2 外部評価の結果	13
おわりに	19

はじめに

本学院は、今年度から教育水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的な責任を果たし、与えられた使命を達成するために、自らの責任において教育研究活動や管理運営等について点検評価を行い、公表することとした。自己点検・評価の妥当性には客観性が必要なことから、本学院の諸活動について、学院外から広く意見を聴取するため、まず今年度は学院外から招聘している外部講師を含めた「九州動物学院講師会議」のなかで自己評価を点検することとした。

方法として、取組の概要及び教職員による自己点検（平成 29 年 1 月実施）の結果をもとに自己評価を行い、「自己点検評価項目の取組及び達成状況」としてまとめ、アンケート調査（平成 29 年 9 月実施）とともに 1 回目の講師会議（今年度は個人面談）で検証、課題の洗い出しを行い、2 回目の講師会議において、次年度の学校運営にどのように活かしていくのかをまとめることとした。

来年度は、学院外部識者による学校評価を行い、平成 31 年度には外部監査に対応した評価システムへ移行することとしている。

I 学校の教育目標

本学院は平成16年4月に開学し、平成28年4月から学校法人として認可された。専修学校として学校教育法に基づき高等学校教育の基礎の上に職業若しくは实际生活に必要な能力を養成するとともに、文化的教養の向上を図ながら人材像として「生命を尊重し、動物と人間社会に真の絆を築き、動物の保健・医療・福祉の分野に貢献できる人材の育成」することを基本理念として掲げ、学力や資質、能力については次の3点を教育目標として具体化している。

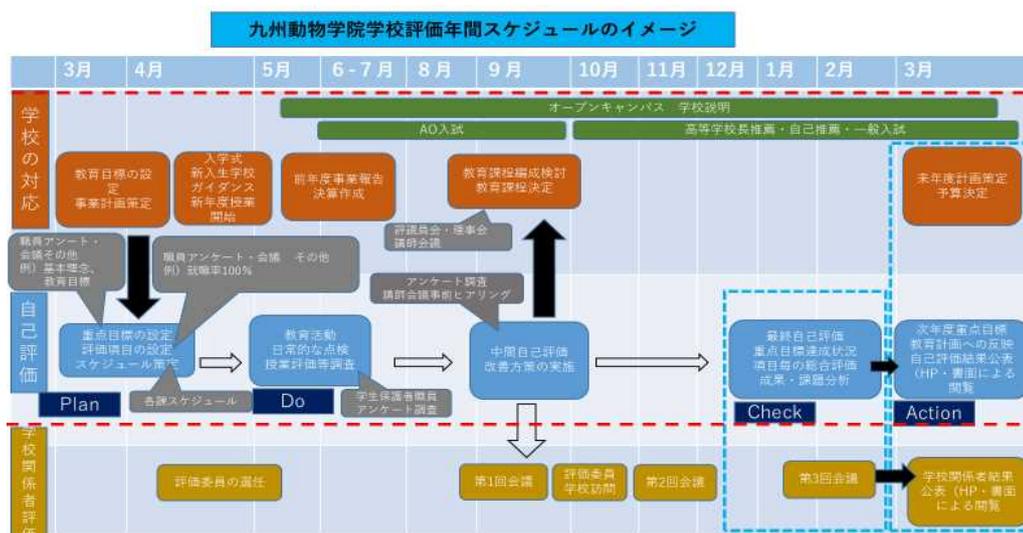
- 1 命の尊厳を基盤に、動物の権利を尊重し、かつ豊かな人間性を養う。
- 2 動物の保健・医療・福祉にかかわる専門職としての知識、技術および精神を養う。
- 3 広い視野に立ち、生涯を通じ課題探求と問題解決に努める人間力を養う。

II 本年度に定めた重点目標や計画等

- 1 学生募集は40名入学を目指す。
- 2 就職率100%を目指す。
- 3 認定動物看護師試験100%合格を目指す。

III 自己点検・評価の方法とスケジュール

- 1 平成28年9月～10月 専修学校における学校評価ガイドライン（文科省）と自己点検・評価表（ISO29990対応版）による自己点検・評価の項目の洗い出し作業
- 2 平成28年12月 九州動物学院職員全員にアンケート調査
- 3 平成29年4月～7月 取りまとめ作業
- 4 平成29年9月 外部講師へ取りまとめ報告とアンケート調査実施
- 5 平成29年10月～12月 外部講師アンケート取りまとめと平成30年度重点目標、計画、評価項目等の素案作成
- 6 平成29年12月
～平成30年2月 第2回講師会議まで素案への意見調整及び取りまとめ
- 7 平成30年3月 第2回講師会議にて平成30年度自己点検・評価法を決定



IV 自己点検評価項目の取組及び職員による達成状況の評価

1 教育理念・目標

(1) 取組状況

- ・本学院では、基本理念で人材像を教育方針で必要な学力や資質、能力について具体化している。
- ・本学院の基本理念は年度当初全ての学生を対象に、「学生便覧」(学則、修学、就職、学生生活、学生規定と取りまとめたもの)の説明を学院長が行う。併せて便覧は全ての講師、教職員に配布し周知している。

(2) 評価項目と職員による自己評価(平均3.3)

1 教育理念・目標	評価	記載文書等
理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	・学生便覧の理念・目標
学校の特色は何か	4 ③ 2 1	・教育課程編成委員会議事録、 ・専門実践教育訓練調査表 ・パンフレット ・カリキュラム検討委員会 ・オープンキャンパス講義
学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1	・学生便覧

※評価の欄は 適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1 とした。(以下同様)

(3) 課題

- ・学院の基本理念、教育方針は明確に定められ、学生便覧等に明文化されているものの、教職員間の理念・育成人材像が共有されていない、認知度が低い、理解しにくいなど。
- ・一般向けに学校の特徴などを理解しやすいものにする。
- ・教職員間の理念の共有化がなくそれぞれの学生対応している。

(4) 今後の改善策

- ・学生職員間の意識を高め、共通認識を図るための会議の必要性、学院のアピール法を検討
- ・学院の理念・人材育成像を基本にした問題解決策を図る。

2 学校運営

(1) 取組状況

- ・学校運営方針案を評議員会で検討し理事会で決定後、全職員に会議の席で周知している。
- ・組織の意思決定は職員意見を集約し学院長が決定する。
- ・今年度新たに、学院の総体的な意思決定を行えるよう、「学校法人昭徳学園九州動物学院教育審査会」を設置した。
- ・教育審査会の設置により学務及び学院行事に係る様々な意思決定を、職員総意のもとで行うことが可能となった。
- ・情報公開については SNS を利用した広報展開している。
- ・ホームページ、学院パンフレット等、九動通信で情報発信している。
- ・コンプライアンス体制としては規則、規定で明文化し運用している。

(2) 評価項目と職員による自己評価（平均 3.0）

2 学校運営	評価	記載文書等
事業計画に沿った運営方針は策定されているか	4 ③ 2 1	・理事会・評議員会議事録 ・各種会議
運営組織や意志決定機能は効率的か	4 ③ 2 1	・理事会・評議員会議事録 ・組織図
業界等に対してコンプライアンス体制は整備されているか	4 ③ 2 1	・就業規則、賃金規定
教育活動に関する情報公開が適切に整備されているか	4 ③ 2 1	・HP 学校の概要・活動内容 ・SNS、オープンキャンパス ・九動通信
コンプライアンス体制は整備されているか	4 ③ 2 1	・就業規則、賃金規定、講師就業規則

(3) 課題

- ・情報の共有、公開情報が少ない、業界の社会保険の充実
- ・体制は整ってきているが、細かいルール見直しが必要
- ・教育内容の密度比べ情報公開が遅れている。
- ・業界への社会保険の充実のための啓発活動の実施
- ・組織の意思決定が曖昧のまま情報公開がされている。

(4) 今後の改善策

- ・情報の共有とライン強化による組織的な対応
- ・問題点の洗い出しと規定や体制を整備する。
- ・動物業界への理解を求める社会への啓発活動
- ・SNS 等情報発信は一部ではなく全員で記事を考えるシステムの確立
- ・組織の見直しと校務分掌を把握し役割分担を明確に。
- ・学校管理規則に則り、文書管理、記録を残す。
- ・コンプライアンス、ハラスメント等責任者を置く。

3 教育活動

(1) 取組状況

- ・年2回の外部講師も含めた全講師会議を開催し、シラバス、学院歴、年間行事、時間割を検討している。
- ・成績評定単位取得については学生便覧の学則、学生マニュアルの学生規定、履修規定、試験規定に明文化し、運用している。
- ・資格取得は必要性、重要性を授業でも行い、必要な研修については職員が積極的に引率指導している。
- ・本学院の特色ある教育課程の活動として、動物介在活動、インターンシップ、校外学習、海外研修、動物飼育等がある。学生はこれらの活動をとおして社会的な視野を広め、卒業後の進路決定の際の一助としている。
- ・教育課程以外の活動として、ボランティア団体「Box 竜之介」が毎年2月、11月に実施する野良猫不妊手術キャンペーン（TNR）活動、熊本市動植物園が難病や障害を持った子どもたちと家族を閉園後に招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」、子猫を離乳期まで育てるミルクボランティアと里親探し活動、熊本城マラソンボランティア等命の尊さ、人のつながりの大切さを学ぶ機会として積極的に参加している。

(2) 評価項目と 職員による自己評価（平均3.6）

3 教育活動	評価	記載文書等
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけされているか	4 ③ 2 1	学生便覧、シラバス、時間割、年間行事
授業評価の実施・実施体制はあるか	4 ③ 2 1	講師会議資料、シラバス
成績評定・単位取得の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	卒業・進級認定会議資料 学生便覧
資格取得の指導体制はあるか	④ 3 2 1	学生便覧、シラバス、時間割、学生指導マニュアル、インターンシップ評価表
業界の人材ニーズを踏まえた、教育の実践がなされているか	④ 3 2 1	学生便覧、シラバス、年間スケジュール、特別講義、オープンキャンパス

(3) 課題

- ・特色あるカリキュラムの構築が必要
- ・資格取得への学生間の意識格差があり、情報も不足している。
- ・学生が納得いく授業に取り組む。
- ・外部講師への周知と理解が得られていない。

(4) 今後の改善策

- ・講師間の情報交換をこまめに行うとともに、様々な講師の意見を聴く。
- ・認定機構のコアカリの見直しに準ずるが、特色あるカリキュラムには検討委員会等の立ち上げが必要
- ・評価体制を整備して、授業参観・研究授業等を実行する。
- ・業界に求められる人材像については校内ガイダンス等を実施する。

4 教育成果

(1) 取組状況

- ・インターンシップ制度の充実のため動物病院、ペットショップ、動物園、水族館、牧場関係のみならず、動物関連行政、動物保護団体等様々な機会を利用し活動領域を広げている。
- ・資格取得については、本学院では1年次にライセンス対策としてコマを設けており、資格の必要性、試験案内等を行い、受験の際は引率するなどきめ細やかな対応を行っている。
- ・特に業界関係事業所には、動物愛護の重要性への認識の底上げのためにも、待遇改善を機会あるごとに要望している。
- ・卒業生へは、特に学院飼育動物の死亡等があった場合、連絡網をとおして周知する。その際近況を聴取している。

(2) 評価項目と職員による自己評価（平均3.3）

4 教育成果	評価	記載文書等
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	インターンシップ協定書 巡回先事業所コメント
資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	ライセンス対策授業（各種資格の必要性、試験案内等）
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	担任制による日常ケア（ホームルーム等）、個別面接 学生相談室（会議室、図書室等）
在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	巡回先事業所、高校コメント 連絡網による定期的な情報提供

(3) 課題

- ・卒業後の動向把握がしにくい。
- ・勉学や意識の低下などで退学者を減らす。
- ・退学者は毎年。退学者の問題は入学選考のありかたにも関わるので話し合いが必要
- ・県外就職の卒業生の状況把握は困難
- ・卒業後の継続率や離職率がデータ化されていない。

(4) 今後の改善策

- ・卒業生の再就職支援ができる学校づくり。
- ・学生とのコミュニケーションを大事にし、学生の悩みを軽減する
- ・入学時に学力面、精神疾患等の問題を指摘されたものが退学につながっている。入学時の審査・議論が必要
- ・卒業生の状況把握には同窓会組織の整備が必要。九動通信の卒業生への送付や同窓会懇親会等のケア・アクションも必要
- ・体だけでなく心のケアもしながら学生生活を充実させる。
- ・卒業後の状況をデータ化。評価は勤務先の聞き取りを行う。

5 学生支援

(1) 取組状況

- ・卒業生の就職先事業所からの評価は高い。これは、動物病院と一体化している本学院の最大の特徴を活かした臨床現場における実践教育の成果と推察。
- ・動物関連事業所については、その訪問時に待遇の改善を要望もを行っている。
- ・学生相談（学業、課外活動、生活等）については担任制度による細やかな対応を行っている。奨学金の利用等の際は、学生保護者とも綿密な協議を行っている。

(2) 評価項目と職員による自己評価（平均3.4）

5 学生支援	評価	掲載文書等
就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	就職サポートシステム（教育支援課学生支援課全科上げての支援体制を構築
学制相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4 ③ 2 1	担任制による日常ケア（ホームルーム等）、個別面接 学生相談室（会議室、図書室等利用）
経済的側面に対する支援が全体的になされているか	4 ③ 2 1	奨学生、支援機構、分割案内
課外活動に対する支援は十分か	4 ③ 2 1	学生便覧、時間外活動
学生の生活環境への支援は十分か	④ 3 2 1	アパート、アルバイト案内
保護者との関係は適切になされているか	4 ③ 2 1	担任制による日常ケアし、保護者へは必要に応じて対応
学生の健康管理を担う組織体制が整備され、有効に機能しているか	④ 3 2 1	学院運営歴（健康診断受診日程）産業医委託

(3) 課題

- ・就職支援体制は就職させる意識付けにも繋がるが弱い。
- ・学生寮・特待生制度が無い。
- ・求人動向を周知できる体制
- ・問題のある学生保護者のみ対症療法的な連携。問題のない保護者とはほとんど関わらない。
- ・カリキュラムに就職支援と個人面談が組み込まれている。担任による個人面談。バイト不動産紹介も適切
- ・健康診断は学院だけではないので時期が遅い。
- ・学生一人一人の生活状況の把握が不十分
- ・就職支援相談は見直しが必要。経済的な支援は検討課題。遅刻、休みがちな学生の保護者とは積極的に関わる必要

(4) 今後の改善策

- ・就職は最終ゴールなので求人票を学生の目に留まるところに置く。
- ・保護者会開催は学生へのケアを知る機会となり有効。学生指導の効果も上がり、口コミ等の評判も上がる。
- ・学生の異変を感じたら積極的に面談、細やかな対応のため家庭訪問を実施する。
- ・学生相談を校務分掌に、特待生の検討

6 教育環境

(1) 取組状況

- ・施設・設備については必要に応じて補修、購入等を行い対応している。
- ・備品管理台帳に基づき管理・点検している。
- ・防災については、各フロアの責任者を決めて、毎年1回消防訓練を行っている。
- ・平成28年熊本地震の際は、停電、断水、備品類の倒壊等があったものの、停電は自家発電機で復旧し、教室は動物同伴避難所として被災者に開放(4/15～5/7)した。学生職員の連携で避難者(延べ人1118人、動物687頭)の対応から支援物資(ダンボール箱4000箱相当)の仕分け等様々な対応を行った。

(2) 評価項目と職員による自己評価(平均3.7)

6 教育環境	評価	掲載文書等
施設・設備は、教育上十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1	専門実践教育訓練調査票一式、固定資産台帳
学外学習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1	学生便覧、校外学習実施要領・資料、海外研修授業・資料等
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	防災管理組織図、防災訓練実施

(3) 課題

- ・授業で使用する機材が足りない。
- ・動物病院の併設という類を見ない実践的な教育環境であるが、顕微鏡等の実習機材、薬品等が十分でない。
- ・校外学習・インターンシップのシステムは確立したが、新たな訪問先実習先の開拓も必要。
- ・2年続くイギリスへの海外研修も内容の再検討が必要
- ・医療機器に一部整備不足
- ・インターンシップ等は見直しが必要

(4) 今後の改善策

- ・不足しているもののリストアップ、コストを考えながら揃える。
- ・予算には必要最低限の実習器具・薬品等を反映させる。
- ・校外学習の訪問先は教務で検討
- ・新規のインターンシップ受入先は講師や特別講師の情報や助言のもと長期休暇等を利用し職員全員で巡回する。
- ・動物病院で実習対応、整備必要
- ・海外研修、インターンシップは成果発表の場が必要

7 学生募集と受入れ

(1) 取組状況

- ・学生募集においては、高校訪問時に高校の担当の先生等（進路、担任）本学院の特色、入学から就職に至るまでの学生生活、学費、奨学金等を学院パンフレット、入学募集要項、就職実績一覧の他、九動通信、オープンキャンパス情報、等活動案内資料を用いた丁寧な案内活動を行っている。
- ・高校単独の個別進路ガイダンス、業者主催の地域の進路ガイダンスにも積極的に参加し、本学院の特色を資料等により正確に伝えている。
- ・入学選考についても本学院入学者選考実施要領に基づき、公正な審査を行っている。

(2) 評価項目と職員による自己評価（平均3.4）

7 学生募集と受入れ	評価	掲載文書等
学生募集は適正に行われているか	④ 3 2 1	入学出願書・身上書、成績証明書
学校案内は志願者・保護者に分かりやすいものになっているか	4 ③ 2 1	パンフレット、募集要項 就職実績
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか	4 ③ 2 1	入学出願審査要領、入学者選考実施要領
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1	パンフレット、就職実績一覧
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	学費・補助活動費一覧

(3) 課題

- ・学生募集に長年務めるものがなく信頼関係や情報の積み重ねができない。
- ・募集要項は、学生、保護者に十分伝わっているか第三者による評価が必要
- ・入学選考に関しては外部に提出する書類の書式が整っていない。
- ・入学選考 AO、推薦、一般の違いの説明が必要

(4) 今後の改善策

- ・学生募集の担当を動かさない。
- ・入学選考に関する書類の整備が急務。保護者等による情報開示の請求を想定する。
- ・学生募集と就職支援活動の時期が重なるため校務分掌の見直しが必要

8 法令等の遵守

(1) 取組状況

- ・ 個人情報については、学生便覧の中で、個人情報保護方針として記載し、全学生全職員に周知している。
- ・ 自己点検票については、本学院において今年度が初めてとなる。今後学内外に情報共有し改善に向けて職員全員で進めていきたい。

(2) 評価項目と職員による自己評価（平均3.0）

8 法令等の遵守	評価	掲載文書等
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1	学生便覧（プライバシーポリシー）、学生指導マニュアル、就業規則、文書取扱規定
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1	ホームページ学院概要

(3) 課題

- ・ 自己点検・評価を実施していない
- ・ 個人情報管理・保護は徹底。
- ・ データの保存状態がよくない。

(4) 今後の改善策

- ・ 再評価が必要
- ・ 自己点検評価を前期後期で行う。
- ・ 学校評価のシステムを利用し教育理念・教育目標を理解して自己点検・自己評価を行う。
- ・ 自己点検評価のシステムを早急に整備する。
- ・ 本評価を今後に生かす。

9 社会貢献

(1) 取組状況

- ・社会貢献活動として、ボランティア団体「Box 竜之介」が毎年2月、11月に実施する野良猫不妊手術キャンペーン（TNR）活動、熊本市動植物園が難病や障害を持った子どもたちと家族を閉園後に招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」、子猫を離乳期まで育てるミルクボランティアと里親探し活動、熊本城マラソンボランティア等命の尊さ、人のつながりの大切さを学ぶ機会として積極的に参加している。

(2) 評価項目と職員による自己評価（平均4.0）

9 社会貢献	評価	掲載文書等
学生や教職員によるボランティア活動の奨励、支援をしているか	④ 3 2 1	動物介在活動（県内8施設） TNR活動、ミルクボランティア 里親探し、熊本城マラソンボランティア
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	④ 3 2 1	TNR活動、ミルクボランティア 里親探し

(3) 課題

- ・学生に積極性を身につける
- ・動物介在活動、TNR活動への学生参加は推奨・支援がある。介在活動へは特定の教職員の参加に留まる。社会貢献では教室を利用した各種セミナーの実施、熊本地震の際の同伴避難所としての教室の提供など実施

(4) 今後の改善策

- ・職員も一緒にボランティア活動に取り組みボランティアの良さを学ぶ。
- ・動物介在活動への教職員の参加を呼びかける。

V 自己点検・評価結果に対する外部評価（講師会議）

1 外部評価の方法

自己点検・評価結果について、客観性及び妥当性を検証するため、本学院で設置する講師会議（構成 35 名 外部講師 29 名、内部講師 6 名）において内部講師以外の外部講師の意見を聴取（外部評価を実施）した。評価にあたっては、次の方法で行った。

（1）項目別評価

職員が評価したのと同じ評価様式のものを使用した。評価にあたっては職員評価をまとめたものを参考としていただいた。適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1 の 4 段階で評価を行い、合計数値を人数で除した数値を評価点とした。

（2）評価別項目を踏まえつつ、記述式により任意のご意見をいただいた。さらに、項目別評価結果及び任意のご意見をもとに平成 30 年 3 月 22 日の講師会議の場で議論いただき、自己点検・評価結果全体を総括した。

2 外部評価の結果（平成 29 年 9 月実施）

（1）自己点検・評価項目別（1～9）の評価

各評価項目の平均評価点を出した。★は課題点☆は改善点を示す。

1 教育理念・目標

評価点 3.4

★学生、保護者、社会人の学院への理解度の低さ。

★学生や職員が理念や目標を共有しているかは不明

★学生に伝わっているか不明

☆理事長や職員の持った高い意識がもっと学生間にも理解され広がるような対策

☆理念や目標を共有するにはどのような対策があるかを検討する。

☆学校の特色をもっと高めるためにはどのような方法があるかを検討する。

☆将来構想を理解し、構想実現にどのような方法があるかを検討する。

☆学生や職員に理念や目標について理解しているかアンケート調査を実施する。

☆理念や目標は共有方法（イメージ像、図式等）を検討、実施する。

☆職員で特色を探す。

☆発展のためには学生増員が必須。そのために就職先に学院案内等を郵送、訪問、電話等を活用して開拓する。

☆実習時の服装マニュアルの必要性

2 学校運営

評価点 3.1

☆SNS、ブログの強化

☆学院活動のアピール、コンプライアンス体制

☆生き物相手なので、学生も職員も時間どおり、規則どおりというのは難しいであろう。記録

を残し分担化しフォローし合えるようになれば。

☆情報公開はどの機関や人に対して行うのか検討する。

☆外部の人を入れたコンプライアンス審査会等を作る。

☆学生、保護者、高校、獣医師会等に学院を周知していただくための情報公開や方法を検討する。

3 教育活動

評価点 3. 3

★学生が興味を持つような授業内容にするのが課題

★学院が行っているボランティア活動や海外研修や社会貢献などのアピールの仕方。

★理事長の活動や病院の認知度の高い分、それを学院にも反映させられないか。

★上下関係をわきまえた、敬語等を使うコミュニケーションが必要ではないか

★授業評価の実施・実施体制は、講師会議資料、シラバスで十分か？

★就職先の業界がどのような知識を学生に求めているかわからないので、授業の現場に持ち込めない。

★学生に資格取得の意欲を高めさせる方法はないか？

★学生の意欲に差がある。

★学生の意欲を引き出す授業を考えてほしい。

★授業内容が重複している。

☆授業担当講師が年間目標を設定し、自己評価し次年度へつなげる。

☆就職先にこれから学生に求められる知識や技術を講師が共有することで学院のアピールにもつながる。

☆資格取得の重要性を指導、アルバイト等で資格の必要性を体感させる。

☆動物に関するイベントが少ない。

☆トリマーやトレーナーの資格目標をつくる。

☆新年度の準備時早めに打診してほしい。

4 教育成果

評価点 3. 1

★在校生・卒業生の把握

★卒業後のアフターケアが少ない

★一人の学生の態度しだいで全体がマイナスイメージを持たれる可能性。

★動物業界の就職は学生の性格よるところが大きい。

☆卒業後の継続率や離職率の動き、卒業生のその後の社会活動の生の声などを聞く場を設ける。

☆就職率を上げるため要因を分析

☆退学率の低減策は対話による学生の目標の探し出し。

☆定期的に九動通信等をとおしてイベントを知らせる。

☆学生にどのような資格が取れるのか学院の支援が必要

☆インターンシップの評価は学院職員（担任）に向けつけるものがあるといい。

5 学生支援

評価点 3. 3

★心の問題を抱えて、学院に入学してくる学生も少なくないのではないか。

- ★就職した先に卒業生が残らない。
- ★実際の支援ができていないか不明。
- ☆カウンセラー等を保健室や学院に常任させては。
- ☆保護者が積極的に関わる方法を検討し学院発展に繋げる。
- ☆学生にはアルバイト等で就職に対する心構えを養成。
- ☆就職先の企業、機関との関係を模索

6 教育環境

評価点 3. 3

- ★備品に何があるかわからないので、必要なものは準備していかなければならない。
- ☆防災対策について、地域や行政機関との関係、全体マニュアルの他、職員マニュアル、学生
- ☆マニュアル、飼育動物マニュアルを作成

7 学生募集と受入れ

評価点 3. 4

- ★認知度の低さ
- ★入学選考時に学力について考慮しているか。
- ★他の専門学校生、病院に来院する多数の人が九動の存在内容を知らない。
- ☆認知度を上げるために、オープンキャンパスの情報、学校活動情報などを広く公開
- ☆学生募集マニュアル、年次目標を掲げ次年度に繋げる。
- ☆学生保護者の納得のいく入学選考の基準の検討。
- ☆学生の意識調査（満足度調査）による入学案内等への活用。
- ☆わかりやすいパンフレットを検討。
- ☆学生募集は職員全員が当事者意識を持つ。
- ☆学生募集のマニュアル名を作成し、目標を設定し全員が募集を推進する。

8 法令等の遵守

評価点 3. 3

- ☆学生・職員にマニュアルを作成し徹底する。
- ☆自己点検評価については目標を長期・短期評価を設定する。

9 社会貢献

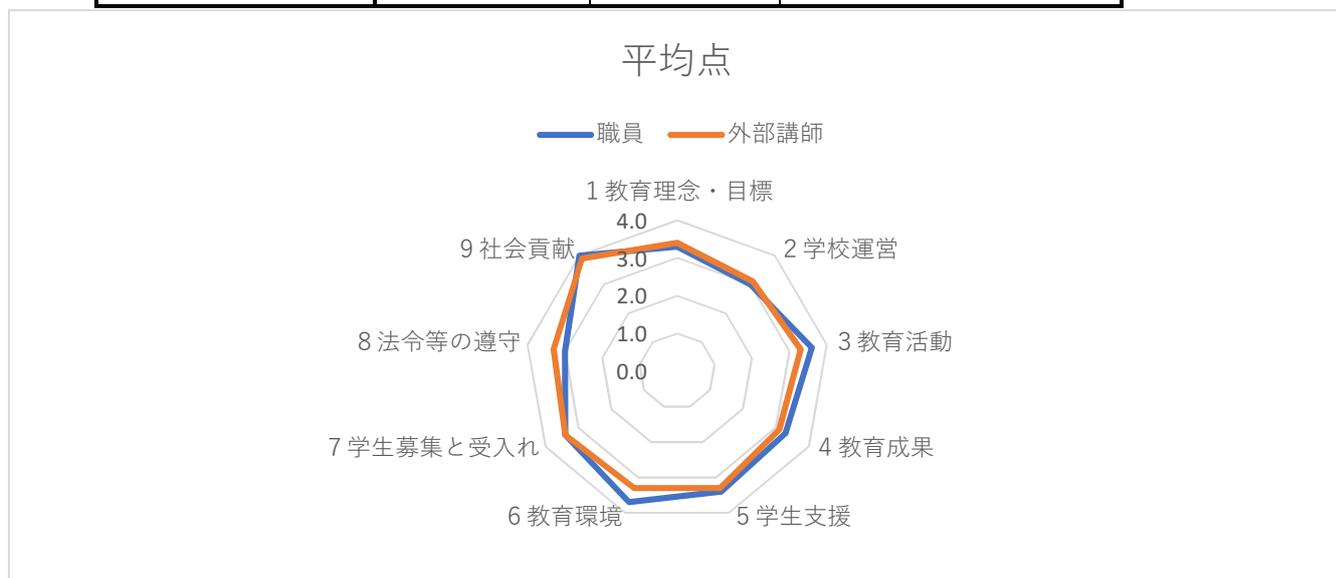
評価点 3. 9

- ★スクリーンの高輝度の物があつたほうがよい。
- ☆机上の勉強に、資格のためだけの勉強ではなく様々な活動によって「人間性の向上を図る素晴らしい教育環境にある。
- ☆個人面談の必要性を提案して今年度実行された。
- ☆卒業後の追跡調査を数年前から提案している。（データ化していない）
- ☆学院の特色・伝統を作り上げる提案
- ☆ブログなどのSNSを強化してほしい。ブログがきっかけで入学希望する方も多くいる。
- ☆ボランティア活動に関する学院の方針やマニュアルを作成し、学院が社会貢献できる事業を検討し学院の能力を高める。
- ☆社会貢献活動は評価しているは、「やらされている。」と感じている学生もいる。

(2) 全体評価の結果

- 4点高評価、3点以上中評価、3点未満低評価とした場合、自己点検・評価結果は職員、外部講師ともに中評価となった。
- 評価項目の中で、学校運営、学生支援、学生募集と受入れ、法令順守については外部講師の回答率が70%台であった。項目について評価できる情報がなかったと考えられる。この点については今後の課題となる。

評価項目	職員	外部講師	外部講師項目別回答率
1 教育理念・目標	3.3	3.4	100%
2 学校運営	3.0	3.1	76.8%
3 教育活動	3.6	3.3	93.7%
4 教育成果	3.3	3.1	82.9%
5 学生支援	3.4	3.3	71.4%
6 教育環境	3.7	3.3	82.5%
7 学生募集と受入	3.4	3.4	70.5%
8 法令等の遵守	3.0	3.3	73.7%
9 社会貢献	4.0	3.9	89.5%



【記述いただいた意見】

- ☆犬の訓練の手法を在学時から卒業後まで継続できる仕組みづくり。
- ☆ヨーロッパのBH（同伴犬訓練試験）を学院から発信する。
- ☆優良飼主の制度化
- ☆実習時の心構えなどが必要なのではないか。
- ☆身だしなみがよく挨拶もできている。
- ☆将来の目標が明確でない学生もいる。
- ☆レポートの書き方がわからない学生が多い。
- ☆職員の活動がよく見えず、コミュニケーションを円滑にし、よりよい学院になってほしい。

☆学院職員全体が中心となって、目に見える活動、学生に反映される活動をしてほしい。
☆テレビ、パソコン、インターネット等教室の備品類を充実してほしい。

3 平成 30 年度の重点目標や行動計画等

【評価を受けて】

- 平成 28 年度学校法人として新たにスタートした本学院にとって初めての自己点検・評価の試みであった。他校実施の先進例に倣い、評価項目については、ISO29990 の項目を参考に数値化できるように配慮した。
- 学院の実情や強み・弱みがより明らかにできるように項目について検討していきたい。
- 外部講師評価回答が低かった項目については、情報提供やコミュニケーションの機会の不足と考えられるので、具体的な行動取組を考えたい。

【内部監査】

- 内部監査については、平成 29 年 11 月、12 月の期間に各担当（教務運営、学生募集、財務状況）から、学院長・昭徳学園監事への報告及び質疑形式で実施した。

【重点目標】

- 1 学生募集は 40 名入学を目指す。
- 2 就職率 100%を目指す。
- 3 動物看護師統一認定試験 100%合格を目指す。

【具体的取組】

- 1 学生による授業評価のアンケート調査の実施
- 2 学院運営についての保護者アンケート調査の実施
- 3 外部講師との意識共有のため、講師会議以外の機会の充実
- 4 外部識者による学校評価委員会の立ち上げと評価の実施

おわりに

九州動物学院が設立されてから本年度で14年目、学校法人化してやがて2年を経過しようとしています。

その間様々な動物関連産業が求める技術者を養成してきました。

近年動物関連業界では、動物医療の高度化、動物愛護の考え方の普及で動物関係の職種、特に動物看護師は教育の高水準化が求められており、各団体による民間資格から統一され、更には国家資格とするような動きがあります。また、他の職種においても同様に、より高い技術水準が求められているところです。このような素養をもつ人材を育成するためには従来の教育法では達成できないおそれもあることから、新しい教育方法の導入や教育改革の推進が急務であると考えております。

このような中、法人化を機会に、今年度初めて自己点検評価を実施し、本学院の取組の特徴や、また弱みがあきらかにできるようにしたところです。しかしながら、今回は評価尺度の設定などや具体的な答え方を明確に提示していないため、結果として目標達成度の評価にも影響を与えたのではないかと考えています。

次年度以降には、自己点検評価が本学院の特色をより鮮明に出せるように、また不明瞭な点を明らかにできる対策をとり、PDCAサイクルの中でより良き学院となるべく強い意志をもって、学校評価に取り組んでいきたいと思っております。

今後とも、学校法人昭徳学園 九州動物学院をよろしく願いたします。

平成30年3月

学校法人昭徳学園 九州動物学院

学院長 足立 國功